



日本救急救命学会

JSELS newsletter

Japanese Society for emergency life-saving

第14号

令和6年9月30日

一般社団法人 日本救急救命学会 事務所 〒164-0001 東京都 中野区 中野2-2-3 (株)へるす出版内
E-mail:info@jspels.com URL:https://jsels.com

一般社団法人 日本救急救命士会との連携について

謹啓、会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。既にご存知の会員もいらっしゃると思いますが、本年4月23日に（一社）日本救急救命士会が正式に設立されました。

発起人会は、総務省消防庁、厚生労働省、医療系職能団体、関連学術団体や政令指定都市消防機関へ個別に訪問され日本救急救命士会の方針や進捗をご報告されました。各機関からは好意的な反応を得られたとのことでした。

日本救急救命士会については、以前、当学会においても以前、日本救急救命士会について協議した経緯があります。その際は、組織の必要性は認識されたものの、会員に多くの消防職員がいることから直接的な協力は難しいと判断されました。しかし、発起人会のご尽力により、総務省法令担当者から、消防職員が個別に救命士会に加入することは問題ないとの確認を得ております。

日本救急救命士会の方針

【政治的行為を行わない、政治連盟に加入しない】

【勤務条件の維持改善を図ることを目的とし、かつ、地方公共団体の当局と交渉する（労働組合のような）活動を行わない】

【報酬等がある場合には、任命権者（市長村長等）の許可が必要であるが、本会は無報酬とする】

先日、当学会へも会員への日本救急救命士会設立の周知の協力依頼を受けたところですが、前述の方針を踏まえ、当学会としても協力する方針です。日本救急救命学会と日本救急救命士会が協力体制を構築し、救急救命士の発展を目指すという考えです。また、当学会としても学術団体として役割をしっかりと果たしていく所存です。

皆さま ご理解、ご協力のほどよろしくお願いします。

日本救急救命学会 理事長
竹田 豊



一般社団法人
日本救急救命士会
Japan Emergency Life-Saving Technician Association

第10回日本救急救命学会学術集会 開催のお知らせ（2024年/令和6年）

会 長：竹田 豊

（企業警備保障株式会社・元出雲市消防本部）

テーマ：

『救急救命現場の「コミュニケーション」を考える』
～共有、そして、協働～

日 時：2024年10月19日（土）10時～18時（予定）

会 場：島根大学医学部臨床講義棟

（島根県出雲市塩治町89-1）

方 式：ハイブリッド開催（対面 及び Web）

参加登録受付期間

早期：2024年6月1日（土）～2024年7月31日（水）

通常：2024年8月1日（木）～2024年10月18日（金）

当日：2024年10月19日（土）正午まで

	6/1～7/31まで	8/1～10/18まで	10/19（当日）
会員	2,500円	3,000円	5,000円
非会員	4,000円	5,000円	7,000円
学生	0円	0円	1,000円

第10回
日本救急救命学会学術集会
『救急救命現場の「コミュニケーション」を考える』
～共有、そして、協働～
2024 10.19 10:00～18:00
島根大学医学部臨床講義棟
(島根県出雲市塩治町 89-1)
大会長 竹田 豊
対面/Web ハイブリッド開催
日本救急救命学会ホームページ
https://www.jsels.jp/conference/
※事前登録が必要です
写真：出雲大社の神楽殿と神楽殿

併設ワークショップ開催のお知らせ

第10回日本救急救命学会学術集会 併設 教育研修会主催
「ワークショップ 救急現場のコミュニケーション」

開催日時：2024年10月20日（日）9時～12時

開催場所：島根大学医学部附属病院ゼブラ棟「だんだん」
（島根県出雲市塩冶町89-1）

参加費：日本救急救命学会 会員3,000円（非会員5,000円）

（ワークショップ詳細）

これまでの救急隊員教育にはなかった、救急隊員自らが考える救急現場活動の基礎を学ぶワークショップです。実際の救急現場を意識した内容となっており、救急活動において共感の得られるポイントを重視しています。救急現場におけるコミュニケーションの向上は、患者の安全と快適さに直結します。ケーススタディ、サイドストーリーではいくつかの「あるある」を提示していき、ディスカッション形式で救急現場における効果的なコミュニケーションを学んでいきます。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております！

過去の開催模様



編集委員会 委員長・査読小委員会 委員長就任のお知らせ

2024年6月15日に日本救急救命学会理事会が開催され、編集委員会委員長ならびに査読小委員会委員長の変更が承認されました。新編集委員会委員長ならびに新査読小委員会委員長につきましてお知らせいたします。



編集委員会 委員長
原 貴大氏

略歴：

2012年に救急救命士資格を取得。2017年に国士舘大学大学院救急システム研究科博士課程を修了。現在は明治国際医療大学にて教鞭を執る傍ら、救急医療体制及び救急救命士教育の国際比較を主な研究テーマとしている。アジアにおける病院前救急の学会であるAsian Association for EMSにて教育委員会の副委員長も歴任している。

ご挨拶：

この度、本学会の編集委員会委員長を仰せつかることとなりました。同委員会の主な役割は「救急救命士ジャーナルの発行」「ニュースレターの発行」「本学会への投稿論文に対する査読体制の担保」です。これらのいずれも救急救命士の学術的成長には欠かせないものであり、その重責を感じております。若輩者ですが精一杯務めさせていただきます。



編集委員会 査読小委員会
委員長 中川 洸志氏

略歴：

2018年に救急救命士国家資格を取得。2023年に国士舘大学救急システム研究科にて博士(救急救命学)を取得。2024年より中央大学理工学部人間総合理工学科の助教に着任。疫学研究を専門とし、救急医療の質向上を目指す。

ご挨拶：

この度、救急救命士ジャーナル査読小委員会委員長を拝命しました中川洸志と申します。救急救命士ジャーナルが、Evidence Based Medicine(根拠に基づく医療)と Experience Based Medicine(経験に基づく医療)の架け橋となるよう、努めてまいります。

（編集委員会について）

学会雑誌（ニュースレター含む）の編集と投稿論文の査読を行うとともに出版社との連絡調整し、発行回数、掲載内容、投稿規定について検討を行う。小委員会として救急救命士ジャーナル小委員会、ニュースレター小委員会、査読委員会を要する。

新評議員選任についてお知らせ

2024年6月15日に日本救急救命学会理事会が開催され、新評議員が下記の通り選任されましたのでお知らせいたします。

一柳 保、井上 拓訓、岩内 俊弘、植田 広樹、榎本 暁、小山内 健介、鴨川 富美夫、萱沼 実、川島 康司、菊池 悠、北野 信之介、北村 浩一、喜熨斗 智也、古賀 司、後藤 奏、後藤 正和、齋藤 健吾、齋藤 駿佑、佐久間 友行、椎名 猛美、嶋本 政雄、白川 透神 一也、鈴木 健介、関根 和弘、染谷 泰子、竹田 豊、田尻 浩昭、田中 英嗣、津波古 憲、中川 貴仁、長橋 和希、鳴海 圭佑、西岡 和男、花田 利男、林 康弘、原 貴大、張替 喜世一、日高 武英、廣瀬 俊之、福岡 範恭、布野 慶人、増原 淳二、松浦 治人、森出 智晴、安留 秀起、吉井 克昌、吉井 友和、吉田 茂男、若松 淳、脇田 佳典

2024年6月15日時点

学生会員についてお知らせ

2024年6月15日に日本救急救命学会理事会が開催され、定款及び定款施行細則一部変更がされましたのでお知らせします。

定款

第 2 章 会員

(会員)

第 6 条 本法人は、以下の会員をもって構成する。

- (1) 正会員 本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士の資格を有する個人。
- (2) 賛助会員 本法人の目的に賛同し、事業を賛助するために、所定の入会手続きにより入会した医師、看護師などの医療職種、または救急隊員資格を有する個人。
- (3) 名誉会員 本法人の発展に特に功労のあった者で、理事会より推薦され、評議員会の承認を得た個人。
- (4) 協賛会員 本法人の目的に賛同し、事業を支援するために、所定の入会手続きにより入会した個人又は団体。
- (5) 学生会員 本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士養成課程にある個人。

(入会)

第 7 条 正会員、賛助会員、協賛会員、学生会員として、本法人に入会を希望する個人又は団体は、理事会が別定める入会申込書により、入会の申請を行うものとする。

2 正会員、賛助会員、協賛会員、学生会員の入会については、理事長がその可否を決定するものとし、理事長の承認をもって本法人の会員となる。

(年会費)

第 8 条 正会員、賛助会員、協賛会員は、定款施行細則（以下「細則」という。）に定める。年会費を支払わなければならない。

2 前項に定める正会員の年会費については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）第 27 条に規定する経費とする。

3 名誉会員、学生会員は、年会費の支払いを免除する。

各委員会よりお知らせ（学術委員会）

学術委員会

委員長：北村 浩一 委員：喜熨斗 智也、林 康弘、吉井 友和

学術委員会では、会員から研究参加者を募り転院に関する研究を開始しました。

倫理委員会で審査後、全国の消防と二次・三次医療機関へ都道府県MCを経由して転院に関するアンケートを依頼する予定です。年内の論文掲載を目指して活動しております。

救急救命士ジャーナル 第14号のお知らせ

日本救急救命学会準機関誌「救急救命士ジャーナル」第14号のお知らせです。今号も皆様が興味をもっていただける特集や記事を精力的に掲載いたしました。当面、学会員には無料配布を予定しております。是非とも、この機会にご入会くださいましてジャーナルをその手に取って頂きたいと思っております。会員皆様からの論文も随時受け付けております。掲載される論文の質と学会誌としての信頼性を保つよう、査読者による査読システムを採用しております。これまで投稿先がなく、半ばあきらめていた救急救命士の方々も胸を張って投稿いただけます。詳しくは救急救命士ジャーナル投稿規定、またはオフィシャルサイトをご覧ください。

一般社団法人
日本救急救命学会準機関誌
Journal for Emergency Life-Saving Technician



年4回発行
編集発行人／佐藤 枢 発行所／株式会社へるす出版

救急救命士が作る
救急救命士のための

救急救命士 ジャーナル

次号4巻3号の目次

- ◆特集：第10回日本救急救命学会学術集会
プログラム・抄録集
- ◆救命の鼓動～12誘導心電図（伝送）で読み解く心臓の声
【第2回】わが国における12誘導心電図伝送の原点と今後の展望
- ◆進取果敢～電動ストレッチャーの可能性、メインストレッチャー取り扱い安全対策
- ◆救急救命士図鑑【第13回】民間救急で働く救急救命士
- ◆外傷病院前救護の現状 from JPTEC【第13回】
骨盤固定具、正しく装着していますか？
- ◆救急救命士 in Hospital：独立行政法人 地域医療機能推進機構 中京病院

- ◆海外の最新論文～【第12回】院外心停止に対するアドレナリン投与と高度気道確保の処置順序
- ◆投稿論文
[原著] 新型コロナウイルス感染症流行期における院内救急救命士によるタスク・シフトの成果
[調査・報告] 学術論文からみる救急救命士による研究活動の現状と課題
- ◆学会のお知らせ、投稿規定、編集後記

2024年10月1日発行 定価1,650円（本体1,500円+税）
へるす出版のサイトからご購入いただけます。

会員募集中

名称 一般社団法人日本救急救命学会

設立年月日 2014年5月30日

主な活動

- ・ 学術集会の開催
- ・ 会員向けワークショップの開催
- ・ 救急救命士及び病院前救急医療に関する調査・研究、教育と普及・啓発
- ・ 会員相互の情報交換及び機関誌の刊行
- ・ 国内外における関係諸団体との交流
- ・ 日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会への委員の派遣
- ・ JPTEC協議会への役員の派遣
- ・ 民間救命士統括体制認定機構への理事の派遣など

会員区分

- ①正会員 本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士の資格を有する個人。
- ②賛助会員 本法人の目的に賛同し、事業を賛助するために、所定の入会手続きにより入会した医師、看護師などの医療職種、または救急隊員資格を有する個人。
- ③名誉会員 本法人の発展に特に功労のあった者で、理事会より推薦され、評議員会の承認を得た個人。

④協賛会員 本法人の目的に賛同し、事業を支援するために、所定の入会手続きにより入会した個人又は団体。

⑤学生会員 本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士養成課程にある個人。

会員登録

年会費9,000円（協賛会員団体50,000円／口）

会員登録は専用フォームからお申込みください。ご登録頂いたご住所に振込用紙を送付致しますので、年会費をお振り込み下さい。お振込が確認できた段階で会員登録致します。

会員登録作業は月2回のため、お待たせすることがございます。また、お振込確認後の会員登録が完了した旨の連絡は致しませんので、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

日本救急救命学会
会員申し込み専用フォーム



救急救命士ジャーナル投稿規定

1. 名称

名称は、救急救命士ジャーナルとし、本誌の英文名は“Journal for Emergency Life-Saving Technician”とする。

2. 目的

本誌は日本救急救命学会の準機関誌であり、救急救命学の進歩と発展に寄与することを目的とする。

3. 投稿資格

- 1) 筆頭著者は本学会の会員に限る。ただし、編集委員会が寄稿を依頼した場合は、その限りではない。著者の人数は 10 名以内とする。
- 2) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」に必要事項を記入して添付すること。

4. 論文の受付

論文の受付には以下の要綱を満たす必要がある。

- 1) 著者の人数が 10 名以内である。
- 2) 8. 文章執筆要領に則した記述である。
- 3) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」及び、申告する COI がある場合は COI 申告書を提出している。

5. 論文の採否

投稿論文の採否は編集委員を含む 3 名で査読後、編集委員会の審査によって決定し、採用となった場合はその日をもって受理年月日とする。

6. 投稿内容

- 1) 本誌への掲載は救急救命士及び救急救命の領域の論文とする。
- 2) 論文は国内で未発表のものに限り、二重投稿は禁止する。ただし、海外で日本語以外の言語で発表した論文を日本語で記載しなおした場合は二重投稿とはみなさないが、著作権の保有者に使用許諾を得ていること、及びその場合の論文カテゴリは、「資料」とし最初の論文の掲載誌を明記する。

7. 投稿論文の種類

論文の種類は、総説、原著、調査・報告、症例・事例報告、資料・その他とする。

1) 総説

多面的に国内外の知見を集め、文献調査に基づき、総合的に学問的状況を分析・概説し、考察したもの。

2) 原著

論文の体裁(目的・対象と方法・結果・考察)が整っており、研究内容に新規性、独創性があり、方法の信頼性、妥当性が高く、その知見が論理的に示されており、学術的価値の高いもの。

3) 調査・報告

独自に行った調査等の結果をまとめ、報告並びに解説したもの。

4) 症例・事例報告

単独または複数の症例や事例をまとめ、考察を加えたもの。

5) 資料・その他

編集委員会が適当と認めたもの。

8. 文章執筆要領

- 1) 原稿はパソコンの文書作成ソフト (Microsoft® word など) にて作成し、A4 判横書きで、40 字×30 行で行ページ設定する。
- 2) 現代仮名遣いに従い、医学用語を除き常用漢字を用いる。
- 3) 度量衡の単位は CGS 単位を用いる。
- 4) 統計処理を行った時は、統計学的検定法を明記する。
- 5) しばしば繰り返される語は略語を用いてよいが、初出の時は完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。(例) 心肺停止 (cardiopulmonary arrest、以下 CPA と略す)
- 6) 図、表、写真の引用は該当文章の末尾とする。
- 7) 原著の本文は、はじめに、目的、方法、結果、考察、結論の順位に記述する。
- 8) 症例・事例報告の本文は、はじめに、症例、考察、(結論)の順に記述する。
- 9) 論文の本文には頁数を付す。
- 10) ランニングタイトルは 20 字以内とする。

9. 和文要旨

400 字以内の和文要旨をつける。

10. 索引用語

原則として日本語とし、総説、原著、調査・報告は 5 個以内とする。索引から目的の論文を確実に検索できるようなものを選択する。

11. 字数制限

原稿は本文、図表、写真、文献を含めて 12,000 字以内とする。図、表、写真は縦 5 cm×横 7 cm に縮小印刷が可能なもの 1 点を 400 字相当と換算する。

12. 図、表、写真

- 1) 図、表、写真には図 1、表 1、写真 1 などそれぞれに通し番号をつけ、日本語でタイトルを表記する。
- 2) 写真は解像度が高いものが望ましい。
- 3) 本文内に図、表、写真、の挿入箇所を示したうえで、用紙 1 枚に 1 点とし、「図、表、写真番号」、「タイトル」「説明文」を記載する。
- 4) 元データがある場合は提出する。
- 5) 図、表、写真等を引用・転載する場合は、著者自身が著作権者の了解を得た上で、出所を明記する。
- 6) 図表は原則としてモノクロとする。カラーでの掲載を希望する場合はカラー掲載料を著者が負担する。

救急救命士ジャーナル投稿規定

13. 文献

- 1) 文献は本文中に上肩付した引用番号順に配列し、20 編程度とする。
- 2) 著者は筆頭著者から 3 名までは明記し、それ以上は「他」または「et al」とする。
- 3) 雑誌名略記は医学中央雑誌刊行会・医学中央雑誌収載誌目録略名表及び Index Medicus に準ずる。
- 4) 文献記載例

<雑誌>

引用番号) 著者名: 題名. 雑誌名 発行西暦年; 巻: 頁-頁.

- 1) 片山祐介, 北村哲久, 清原康介, 他: 救急電話相談での緊急度判定で緊急度が低かった救急車出動事例の検討. 日臨救急医学会誌 2018; 21: 697-703.

- 2) Kinoshi T, Tanaka S, Sagisaka R, et al: Mobile Automated External Defibrillator Response System during Road Races. N Engl J Med 2018; 379: 488-489.

<単行本>

引用番号) 著者名: 分担項目題名. 編者名. 書名. (巻). (版). 発行所, 発行地, 西暦年, p 頁-頁.

- 1) 鶴飼卓: 阪神・淡路大震災. 鶴飼卓他編. 事例から学ぶ災害医療. 南江堂, 東京, 1995, pp35-48.

<WEB サイト>

引用番号) サイト機関: ページ名.(改行)URL(最終アクセス日: yy.mm.dd)

- 1) 総務省消防庁: 平成 30 年度版救急救助の現況. <https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/post7.html>(アクセス日: 2020.1.26)

14. 倫理規定

- 1) 投稿論文のなかで、臨床に関わるものにおいては、傷病者や被験者ならびに特定の個人の権利を損なうことのないよう、必要に応じて倫理委員会による審査を得るなどして、十分配慮されたものでなければならない。
- 2) 個人が特定される年月日などの記載は臨床経過を知るうえでの必要最小限にとどめ、プライバシー保護に留意すること。
- 3) 実験動物に関わるものにおいては、動物愛護の面に十分配慮されたものでなければならず、必要に応じてその旨を記載する。

15. COI (利益相反) の開示

全著者の投稿内容に関連する企業や営利を目的とした団体からの資金援助等の利益相反関係を開示しなければならない。

16. 校正

掲載直前の最終校正は著者校正とするが、その際、大幅な追加、削除は認めない。

17. 別刷り

- 1) 発注は 10 部単位とし、製作費の実費を支払う。
- 2) 注文は著者校正時に行う。
- 3) 料金の支払いをもって発注完了とし、発注完了後 1 か月を目途に納品する。

18. 論文の著作権

本誌に掲載された著作物の著作権は、著者と日本救急救命学会の両者が保持するものとする。

19. 原稿の投稿方法

- 1) 論文投稿は電子媒体のみ受け付ける。
- 2) 著者は、図表入り完成原稿、図表ファイル(PDF 形式以外)、誓約書(書式A)を本学会事務局に電子メールによって送付する。
- 3) COI の申告がある場合には、「投稿時COI(利益相反)申告書」(書式B)を合わせて送付する。
- 4) 著者は査読結果が通知された後、論文に修正が必要な場合は、1 ヶ月以内に修正した論文、および査読コメントの回答文を返信する。
- 5) 著者は採択後の校正作業を 1 ヶ月以内に行う。



学会オフィシャルサイトでは以下のドキュメントをダウンロードいただけます

日本救急救命学会
オフィシャルサイト
<https://www.jsels.com>



【誓約書・COI申告様式】

誓約書、および申告するCOIがある場合はCOI申告書をご記入ください。

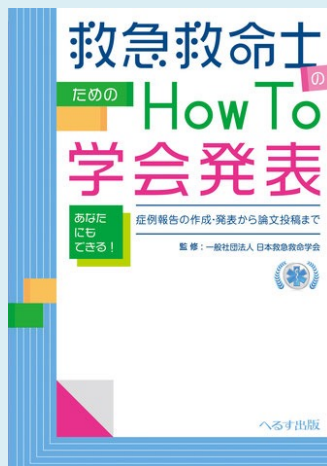
【投稿論文の査読に関するループリック】

査読者は投稿論文に対してこのループリックの評価項目を元にして査読を行います。

【論文投稿の流れ】

論文を投稿された際の採択までの流れを示した資料です。ご参考にしてください。

【広告】学会監修 救急救命士のための How To 学会発表



あなたにもできる！
症例報告の作成・発表から論文投稿まで

学会で発表をしたい、でも何から手をつけてよいかわからない…。そんな救急救命士のために、テーマのつけ方をはじめ、抄録や原稿の書き方、スライドの作成、学会での発表、さらに論文投稿までを実践できるよう

救急救命士の学会である日本救急救命学会の執筆陣が手ほどきします。

- ★コンパクトなA5判ながら写真や図表を多く取り入れ読みやすい！★
- ★実務的な部分について、経験者の目線から具体的に解説！★
- ★検定方法の解説などでは、そのまま代入して利用できるよう消防組織でなじみのあるデータサンプルで提示★
- ★スライド作りの解説では、Before Afterで例示したり、少しのアレンジですぐに転用できるデザイン集を掲載★

本学会はこれから研究や論文執筆に取り組みたいと考える救急救命士の方を、何らかの形でサポートしていく学会へと進化していきます。そのための第一弾です。

ぜひ、手に取っていただいて、症例報告や研究の第一歩を踏み出すためのきっかけにしてください。

これまで、独学で取り組んでこられた方にも、きっと新しい気づきがある一冊です。

－目次－

- Chapter 1** 学会発表と論文投稿の勧め
 - I 学会発表（症例を報告）することの意義
 - II 論文投稿の目的とは
- Chapter 2** 症例報告から始める研究発表
 - I 現場の疑問を研究上の疑問へ変える
 - II 先行研究を探す
 - III 研究倫理を知る

Chapter 3 症例報告の基本構成

- I タイトル
- II COI
- III 背景
- IV 目的
- V 症例
- VI 考察
- VII 結論

Chapter 4 必要最低限の統計学

- I 統計解析とは
- II データの形式
- III 記述統計
- IV 推測統計1（仮説検定）
- V 推測統計2（回帰分析）
- VI Excelで実践
- VII 仮説検定とP値の誤解

Column バイアスって何？

Chapter 5 誰もが見やすいスライドの作り方

- I 「シンプルデザイン」とは
- II 骨子を作る
- III ベースデザインを決める
- IV 配色を決める
- V シンプルデザインを考える
- VI 各スライドを作る

Appendix

- ▼グラフの用途とデザイン
- ▼用途別スライドと資料の作り方

Chapter 6 学会発表に向けて

- I 学会に入会する
- II 口述発表

Appendix

- ▼ポスター発表
- ▼Web会議システムでのセッション

Chapter 7 論文を投稿する

- I 学会発表と論文投稿の違い
- II 論文投稿先を決める
- III 査読とは
- IV 論文を書くポイント

定価 1,980円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

第1版・A5判・136ページ・並製

発行年月：2022年01月

ISBN 978-4-86719-032-6



第10回日本救急救命学会学術集会 開催のお知らせ（2024年/令和6年）

会 長：竹田 豊（企業警備保障株式会社・元出雲市消防本部）

テーマ：『救急救命現場の「コミュニケーション」を考える』～伝承、そして、発展～

日 時：2024年10月19日（土）10時00分～18時00分（予定）

会 場：島根大学医学部臨床講義棟（島根県出雲市塩治町89-1）

方 式：ハイブリッド開催（対面 及び Web）

【広告】学会監修 実践！救急隊員が語る 救急現場のコミュニケーション



救急現場ならではの、救急隊員ならではのコミュニケーション技法を現場経験豊富な執筆者らが解説。これまでの救急隊員教育にはなかった、救急隊員自らが考える救急現場活動の基礎となります。実際の救急現場を意識した内容となっており、救急活動において共感の得られるポイントを重視しています。

ケーススタディ、サイドストーリーではイラストを盛り込み、いくつかの「あるある」を提示しています。消防学校や救急救命士養成所などの初学者への入門書として、救急救命士や指導救命士らベテランの方たちには後進の指導教材として、ご活用いただけます。

－目次－

第1章 相手が感じる救急隊員の第一印象

救急隊員の身だしなみ

リスクになる救急隊員の身だしなみを考えてみよう

第2章 救急現場で遭遇する人たちとの

コミュニケーション

－ケーススタディ－

Episode 0 吉井くん ほろにが隊長デビュー

Episode I 超軽症？ 不搬送時のフォロー

Episode II 興奮する家族とのコミュニケーション

Episode III 加齢性難聴の傷病者との

コミュニケーション

Episode IV 超緊急！ 強気な態度を使いこなせ

Episode V 搬送拒否を主張する見過ごせない傷病者

Episode final 吉井隊長の夜明け

第3章 アプローチの基本

救急隊はグループではなくチーム

入電情報に基づく隊員間の段取り

現場に必要なアプローチの肝

第4章 医療者とのコミュニケーション

病院連絡は難しくない

医療機関での引き継ぎ

第5章 大切なアフターコミュニケーション

応急手当を実施した人との

アフターコミュニケーション

引き継ぎ医師とのアフターコミュニケーション

傷病者や関係者とのアフターコミュニケーション

救急隊のアフターコミュニケーション

「有終の美」～未来の自分への糧～

Episode side story

1 日本語って難しい

2 微妙なお年頃

3 お母さん黙って…

4 女性を見る目はもともとない

5 加齢と語彙力

定価：1,320円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

著：一柳保、竹田豊、西岡和男、吉井友和、脇田佳典

第1版・A5判・72ページ・並製

発行年月：2022年7月

ISBN 978-4-86719-045-6



編集後記

先般の理事会において、委員変更に伴う日本救急救命学会の編集委員会委員長ならびに副委員長の後任が承認されました。当会の編集委員会は準機関誌である救急救命士ジャーナルの内容企画、出版社との調整作業はもとより、ニュースレター小委員会による各種コラムや会員の皆さまへの各種お知らせ、投稿規定や当会公告などを掲載しているニュースレター発刊、そして学術団体として要である投稿論文の受付、査読調整、審査、掲載作業を行うなど、多岐に渡ります。今期は、救急救命学博士号を修得され、学術分野において豊富な経験をお持ちである原貴大氏、中川洸志氏にその任をお任せすることとなりました。学術団体として更なる飛躍をするべく、今後のご活躍にどうぞ御期待下さい。▶そして、救急救命士の新たな職能団体一般社団法人日本救急救命士会より団体設立の周知について協力依頼が竹田理事長の下へ届きました。当会には多くの公的組織に所属されている救急救命士の皆さまがご所属なさっていることからいわゆる団体活動・政治的活動への影響が懸念されておりましたが、竹田理事長からのメッセージにも掲載されていましており、日本救急救命士会発起人会の御尽力により各種公的関連団体が認知をしていること、また団体活動・政治的活動を行わないことが宣言されていること、総務省公務員部からも公的組織に所属する救急救命士が加入することは問題無いことが示されたことから協力に至ったとのこと。職能団体として日本救急救命士会への連携を密にしていくとともに、当会も救急救命士を中心とした学術団体として更なる歩みを進めていくことが大切となってくるかと思えます。▶そのようななか、記念すべき第10回学術集会の開催が10月19日（土）と迫ってきています。開催地は出雲国、そして開催時期は神在月として大変厳かな場所・時期となります。盛会となりますよう皆さま奮って参加登録をいただき、現地もしくは画面越しでお会い出来ることを楽しみにしております。

(S.Gotoh)